

薬剤名 ○○○乳剤
 県名 ●●県

作物 **ダイズ**
 実施場所 ○○普及センター(○○市)

土質土性 **火山灰・埴壤土**

品種 □□□□
 作型 **畦畦栽培**

耕起日 **平成○○年5月27日**
 播種日 **平成○○年6月1日**
 定植日 -

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量) (/10a)	処理日	処理方法、 処理時土壌の乾湿	作物生育程度	処理時の状況 雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃 (16a)	処理 1回目	□□□乳剤 400mL(100L)	6月3日	乗用管理機(土壌処理(全面)) 適湿	播種後 出芽前	未発生
	処理 2回目	○○○液剤 200mL(100L)	7月12日	乗用管理機(茎葉処理(畦間)) やや乾	6~8葉期	イヌビエ6cm、シロザ10cm、スベリヒユ5cm、 イヌタテ8cm、ナスナ5cm
	処理 3回目					
慣行	処理 1回目	□□□乳剤 400mL(100L)	6月3日	乗用管理機(土壌処理(全)) 適湿	6~8葉期	未発生 イヌビエ6cm、シロザ10cm、スベリヒユ5cm、 イヌタテ8cm、ナスナ5cm
		●●●乳剤 250mL(100L)	7月12日	乗用管理機(全面茎葉散) やや乾		

対象薬剤以外の除草剤の処理についても記載する。

処理時土壌の乾湿:
 乾・やや乾・適湿・湿 の4区分

乾物重、生体重のいずれかを記載する。

処理後の日数を記載する。

圃場	除草効果 (残草量g/m ²) 生体重							雑草調査日: 7月30日 (処理18日後)			薬害		評点		
	イネ科一年生			広葉一年生				多年生雑草			総計 下段()は慣行区比	症状・程度		収量比 対慣行	
	イヌ ビエ			シロ ザ	スベリ ヒユ	イヌ タテ	ナス ナ								
確認圃	1.9			0.8	0.9	2.8	1.1					7.5 (93%)	なし	100%	A
慣行	3.2			0.3	0.5	3.2	0.9					8.1 (100%)	なし	100%	

総計
 上段:残草量
 下段:慣行区比

無処理区での発生雑草(発生程度):
 イヌビエ(多)、メヒシバ、シロザ、スベリヒユ、イヌタテ、ナスナ

備考(特記事項等):
 無処理区での発生雑草:
 発生量が多い場合は(多)を記載する。

備考:
 評点が「-」の場合、その理由を記入する。
 残草が多い場合、問題となる薬害が発生した場合は詳細を記載する。
 気象条件、水管理、雑草発生状況等で通常と異なることがあれば記載する。

薬剤名 ○○○水和剤
 県名 ●●県

作物 キャベツ
 実施場所 ○○普及センター(○○市)

土質土性 洪積・埴壌土

品種 □□□□
 作型 露地栽培

耕起日 平成○○年5月14日
 播種日 -
 定植日 平成○○年5月15日

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)(/10a)	処理日	処理方法、 処理時土壌の乾湿	作物生育程度	処理時の状況 雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃 (10a)	処理 1回目	○○○水和剤 300g(100L)	5月15日	動力噴霧器(定植後、全面処理) 適湿	2~3葉期	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行 (10a)	処理 1回目	□□□乳剤 500mL(100L)	5月15日	動力噴霧器(定植後、全) 適湿	2~3葉期	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

処理時土壌の乾湿:
 乾・やや乾・適湿・湿 の4区分

乾物重、生体重のいずれかを記載する。

処理後の日数を記載する。

圃場	除草効果 (残草量g/m ²) 生体重						雑草調査日: 6月20日 (処理36日後)		薬害		評点	
	イネ科一年生			広葉一年生			多年生雑草		総計 下段()は慣行区比	症状・程度		収量比 対慣行
	メヒシバ			シロザ	イヌビユ	ハキダメギク						
確認圃	0.5			1.8	2	0			4.3 (93%)	なし	100%	A
慣行	0.3			2	2.3	(16)			4.6 (100%)	なし	100%	

適用登録外の作物
 でも、発生が目立つ
 場合は()で記載す
 る。総計には含めな
 い。

総計
 上段:残草量
 下段:慣行区比

無処理区での発生雑草(発生程度):
 メヒシバ、シロザ、スベリヒユ、イヌタテ、ハキダメギク
 備考(特記事項等):

備考:
 評点が「-」の場合、その理由を記入する。
 残草が多い場合は詳細を記載する。
 気象条件、雑草発生状況等で通常と異なることがあれば記載する。